

四谷の千枚田 小水力発電施設のご紹介

中山間ふるさと・水と土保全対策事業

1 施設の経緯

愛知県では、再生可能エネルギー(水力、風力、太陽光など)を利用した発電の普及に取り組んでおり、なかでも農業用水を利用した小水力発電に特に力を入れている。

愛知県が設置する小水力発電施設の第1号が「四谷の千枚田」で実現したのは以下のことによる。

- ① 小水力発電の導入に対し、千枚田保存会、連谷地区など、地元住民の積極的な協力があつたこと。
- ② 鞍掛山の湧水を利用しているため、水利権などの調整が不要であつたこと。
- ③ 農業用水として利用している水を発電にも利用可能であつたこと。
- ④ 「四谷の千枚田」として全国的に知名度も高い地域で、再生可能エネルギー利用促進の取り組みは、先導的な事例として広く小水力発電の普及が図れること。

2 施設の概要

水車方式 クロスフロー水車 落差 11m 流量 約10ℓ/秒
 発電方式 永久磁石式発電機
 最大発電量 1KW

3 施設の構造

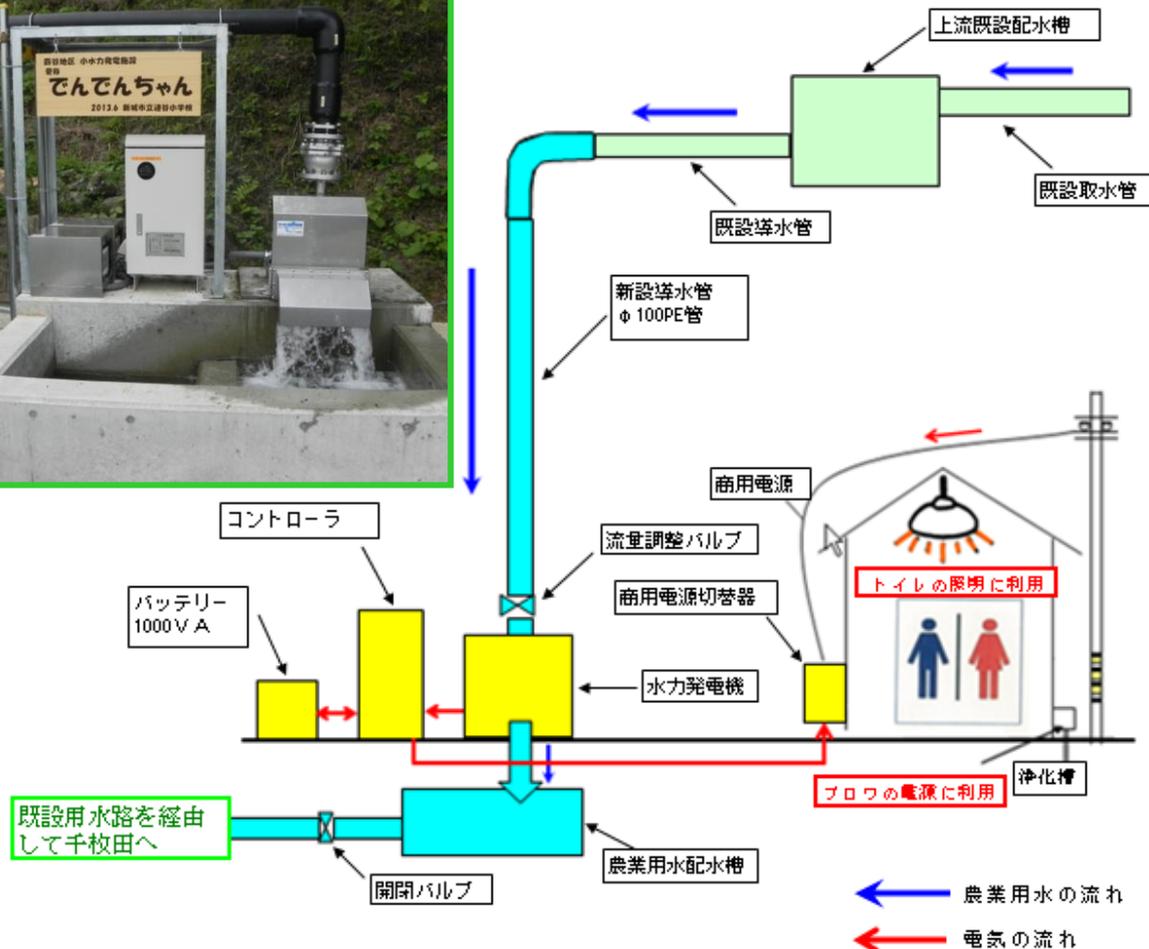
施設の構造は下図に示したように、水車に連動した発電機を水力により回転させ発電している。

四谷の

千枚田だより



第120号



← 農業用水の流れ
 ← 電気の流れ

視察

八月一日、刈谷土地改良区平成二十五年度全役員・総代四十三名が「千枚田の環境保全活動及び県内第一号の農業用水による小水力発電の現地研修」を目的に訪れた。

一行は山裾に開かれた棚田を見て「これは、大変だ。守り貫く耕作者の至誠に敬意の念を抱く。ご苦労様の一言に尽きる。」と絶賛。

案内役の(舜)は「全部の面積(36㏍)でも皆さんの一戸あたりにも満たないが労力と生産性の低いことには何処にも負けない。」と誇らしげに話した。

愛知県第一号の小水力発電施設について県新城設楽農水事務所建設課より施設説明が行われた。



納涼盆踊り大会

八月三日、連谷公民館・同コミュニティ主催で恒例の納涼盆踊り大会が連谷小学校校庭で行われた。

会場では焼肉、フランクフルトなどがタダ同然で販売。五百円も持つていけば酒は飲めるし、踊りも踊れるし、腹も膨れる。

子供達は「金魚すくい」と花火に夢中だった。 チョイナチョイナ・



水源地を訪ねて

八月四日、豊橋市が企画した「水源地を訪ねて」に応募した二十二人の親子連れが千枚田を訪れた。

応募で選ばれた親子は自然、環境に興味を示し(舜)も調子づいて「皆んなは自然が悪くなった、環境が悪



くなつたとやたらに知ったかぶりの話をするが悪くしたのは誰なんだ：あんた達なんだ！悪くなつた駄目になつたと口ばつかりでなく、手心を加えれば自然は蘇る。それが、自然再生なんだ。その成功例がこの田んぼだ。田んぼの中にオタマジャクシ、カエルがやたらと多い、これらを餌に狙うへビやイモリも増えた。また、タニシ、ドジョウがいっぱい居る。でも、オタマジャクシもあまり多いとカエルに変態しない。空を見ればワシ・タカ類がへビや小動物を餌に求め舞っている。この姿が自然の摂理・生物多様性に富んだ

四谷の千枚田なのだ、ついつい説明に熱が入ってしまった。

参加者の主婦から「小山さん、お体に気を付けて千枚田をいつまでも守って下さい。」と真意に満ちた釘を刺されてしまった。

余談だが、小沢の生物を見せようと前日に「タモ」と「水槽」を用意して置いたところ、親切に誰かが持っていてくれた。

平成 24 年度有害獣捕獲実績

新城市鳥獣害対策室

サル 252 頭 イノシシ 858 頭
シカ 222 頭

上記頭数は狩猟期間を除く頭数で、前年度と比較してサル 131 頭シカ 71 頭の増。イノシシは 405 頭の減であった。

イノシシの害は軽減されないがなかなか捕獲できないのが悩みだ。

◎見頃

九月初めには黄金色に実る。上旬頃から稲刈りが始まり二十日頃には田んぼ一面にハザ干しが見られる。

行 平成二十五年八月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二